

項目	自己評価
短大組織マネジメント	<p>(1) 短大改組に向けての教育内容充実化</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 生活学科の改組を控え、食物栄養専攻に3名の教員を補充採用した。</li> <li>2) 食育領域の専攻科設置（平成30年4月予定）に向けて準備委員会を設置し、カリキュラム案の策定、募集対象となる学生への案内等を行った。実学指向の実務家教員及び助手の採用活動を継続した。短大の一部施設リロケーション実施による学生利便性の向上と設備を有効活用した。</li> <li>3) 専攻科児童生活専攻の差別化戦略打ち出しについては、コース制の完成年度（次年度）に向けて、学生の学びについて検証する。</li> <li>4) 児童教育領域における併設子ども園との実習、インターンシップ、教員交流の強力推進について、10月より短大・子ども園協働推進会議を設置し、29年度案を策定した。</li> <li>5) 就職内定率については、生活学科食物栄養専攻98.5%、専攻科児童生活専攻100%、臨床検査学科100%となった。</li> </ol> <p>(2) 教学体制・人材の強化と教育力の向上</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 学長のガバナンスによる教学組織の磐石化のために、運営会・教授会での話し合いを確実にし、建学の精神・教育目標を踏まえた「3つのポリシー」の改正を行った。</li> <li>2) 教員の教育力向上のためのFD・SD活動の充実については、授業参観（前・後期 各1回3週間）学生の授業アンケート、教育研修会（9月5日）及び職員研修会（3月29日）を行った。</li> <li>3) 「新渡戸フォリオ」については、学生のレポート提出による学修記録の蓄積、掲示板連絡等のツールとして活用し、学習成果の向上と就業力の強化に繋がった。</li> <li>4) 「新渡戸検定（学科専攻編）」については、食物栄養専攻（調理検定）、児童生活専攻（素話・ペーパーサート他）、臨検学科（病理・血液・生理・微生物）でそれぞれ内容の充実を図った。</li> </ol> <p>(3) ICT環境の整備および施設設備の有効活用</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 教室のICT環境の改善と実習室等の他学校との共用推進の一環として、臨検学科学生の本校校舍実験室および教室利用が開始された。</li> </ol> <p>(4) 安定的な学生募集力の維持</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) HP（PCサイト・スマートフォンサイト）の更新により情報発信力を強化した。優位性・独自性の発揮による学生募集力の強化を図った。</li> <li>2) オープンキャンパスの内容充実により、年間実施回数は生活学科26回、臨検学科15回にのぼった。</li> <li>3) 効果的な指定校訪問を行い、生活学科で241校、臨床検査学科で42校を訪問した。</li> <li>4) 訪問記録の見える化を図り、教職員での情報共有を図った。</li> <li>5) オープンキャンパスに来校実績のある高校へ再訪問を実施した。</li> <li>6) LINE等SNSを駆使したりリアルタイムの情報提供により、志願者のフォローアップを強化した。</li> <li>7) オープンキャンパス来場者のアンケートに基づき、受験予定者が在学する指定校への接触を図った。</li> <li>8) HPへの動画アップロードおよびリターゲティング広告を実施した。</li> </ol>

項目	自己評価
生活学科・専攻科	<p>(1) 生活学科改組に向けた課題等への取り組み</p> <p>1) 改組準備委員会を1月より再開して事務的準備を開始した。</p> <p>[食物栄養専攻]</p> <p>1) 新学科（2年制）および専攻科（1年制）を睨んだ人材採用 ・学科については補充として3名を確保し、専攻科関連の実務家教員を引き続き募集している。</p> <p>2) 演習・実習先施設を確保した。</p> <p>3) 学生にとって魅力ある教育課程の検討を行った。</p> <p>[児童生活専攻・専攻科]</p> <p>1) 子ども学科（2年制）への改組および専攻科（1年制）の維持を睨み、特任教員2名を専任に振り替えることで優秀人材を確保した。</p> <p>2) 学生の質向上および国家資格取得率向上を図った。</p> <p>3) 保育の専門性向上のための専攻科の差別化として、コース制の検討及び担当教員の確保を行った。</p> <p>4) 本物の体験を通じた実践力と保育力の向上に努めた。</p> <p>5) 併設子ども園との密接な教員交流の一環として、児童生活専攻教員による子ども園教員対象研修会、子ども園園長による授業を行った。</p> <p>6) 就業力育成演習（運動会・納涼会）を学生12名が履修し、教職実践演習（2年生）の作品制作を通じて子ども園の作品展に参加した。</p> <p>7) 短大教員3名が短大・子ども園協働推進会議に参加した。</p> <p>(2) 教育目標達成に向けた教学体制の充実</p> <p>1) 基礎学力向上のための効果的なメディア教育を実践した。</p> <p>2) 授業に加え、実習、インターンシップおよびボランティアを通じた学生の実践力向上を図った。</p> <p>(3) 教育環境の整備</p> <p>1) 教室のICT環境の整備および老朽化対応として学内Wi-Fi環境の整備（1番教室・図書館・学生ホール）臨検学科校舎の実験室・教室のICT化、1号館の塗装および第2カフェテリア空調の整備等を行った。</p> <p>2) 第2カフェテリア厨房の稼働率上昇策として、2月～3月に食物栄養専攻の1年生に対し、厨房試作実習を実施した。</p> <p>(4) 学生募集力の強化</p> <p>1) 27年度の学生募集活動結果分析に基づき生活学科募集対策会議を6回開催し、オープンキャンパス・指定校訪問等に関する対応策を検討し実行した。</p> <p>2) AO入試相談会を2回追加実施した。</p> <p>3) 29年度の入学者は生活学科134名、臨床検査学科90名となった。</p>
臨床検査学科	<p>(1) 入学定員増の完成年度（平成30年度）に向けた募集強化</p> <p>1) 入学者の質確保を狙った学生募集対策を進めた結果、オープンキャンパス来場者が229名(昨年度197名)に増加した。</p> <p>2) 入試方法の検証を行い、出願者総数は一昨年並の319名、入学者数は90名（競争率3.5倍）にのびた。</p> <p>(2) 定員増に対応した教員の授業力の強化</p> <p>1) ITHを利用した学生の学力増進指導の強化を図った。</p> <p>2) 2クラスおよび2校地での授業展開充実化の一環として、金曜日・土曜日授業は本町校舎で行われるようになった。</p> <p>(3) 高い新卒国試合格率並びに就職・進学率の維持</p> <p>1) 国家試験合格目標：全員卒業、国試全員合格を目指し、結果は95.3%であった。</p> <p>2) 就職内定、進学率目標：卒業年度内で100%を目指し、達成することができた。</p> <p>3) 国家試験対策委員会（学生・教員）の活動強化により、本学の特性を生かした国試合格に向けての指導・支援ができた。</p> <p>(4) 施設設備の整備</p> <p>1) 教室ICT環境整備に伴う授業手法の向上を図った。</p> <p>2) 本町校舎の有効利用による効率的授業運営を始めた。</p> <p>3) 老朽化した機器・器具の更新を行った。</p>

項目	自己評価
研究所	<p>〔子ども教育研究所〕</p> <p>(1) 子どもに関する幅広い調査研究の出来る環境づくり、および『紀要』発行</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 教育研究活動の推進と活動の充実を図るとともに紀要の発行を準備している。</li> <li>2) 専門性スキルアップ講習会の実施と修了証発行については未実施となった。</li> <li>3) 予算確保と教育研究活動のための時間・空間の確保は今後の検討課題とした。</li> <li>4) 総合的自己点検については学科改組に合わせて進めていく。</li> </ol> <p>〔臨床検査研究所〕</p> <p>(1) 新渡戸文化短期大学臨床検査学科の学術的情報発信と歴史の記録</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 新渡戸文化短期大学臨床検査学研究所雑誌第2巻を発刊した。</li> <li>2) 臨床検査学研究所研究員、客員研究員に対して研修会を実施した。</li> <li>3) 研究員による研究に関する情報共有ならびに研究員の学術向上のため、研究報告・発表会を隔月開催した。</li> </ol> <p>〔新渡戸・森本研究所〕</p> <p>(1) 新渡戸稲造と森本厚吉に関する資料および情報の収集並びに収集した資料の整理</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 新渡戸稲造先生関連の絵葉書整理と、その結果公表を検討した。</li> <li>2) 学園の歴史を説明する資料作成の準備をした。</li> <li>3) (一財) 新渡戸基金など関連する機関との研究の提携を行った。</li> </ol>